

第五十七回卒業証書授与式及び第二十九回修了証書授与式 式辞

鈴鹿工業高等専門学校を卒業、修了される皆さん、おめでとうございます。今年度、準学士課程卒業生はモンゴルからの留学生2名、マレーシアとカンボジアからの留学生各1名を含む218名で、専攻科修了生は28名です。教職員を代表して卒業生、修了生にお祝いを申し上げますと共に、これまで長きにわたりご支援を賜りました保護者を始めとする関係の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

皆さんは中学を卒業した早い段階で技術者を目指し、難関の試験に合格して鈴鹿高専に入学されました。入学当初は卒業までの道のりが長いトンネルのように思えたかも知れません。しかし今、皆さんの前にはそれぞれの景色が明るく広がって見え始めていることでしょう。その景色に幾分か不安があるかも知れませんが、自信をもって大丈夫です。皆さんは鈴鹿高専での学習や様々な活動を通して入学時とは比較できない程成長されています。社会に出れば同年代の技術者と比べて圧倒的な実践力が身につけていることを実感されるはずです。

特に近年マスコミ等からも高専生の高い能力と可能性が報道されているので、皆さんも国や産業界からの期待を実感していることでしょう。しかし気負うことはありません。高専で得意だったことは大いに自信を持って社会で活かして下さい。そして不得意だったことに拘り過ぎることはありません。必要になった時に学び直せば良いし、あるいは得意な人に力を借りることもあるでしょう。社会には皆さんの様々な能力を発揮できる場が沢山あります。

さて、折に触れて紹介したことですが、高専の評価を詳しく調査した結果が5年前の岩波書店出版「高専教育の発見」に掲載されています。例えば卒業生の年収も評価の一つでしょう。ネット等では専門学校と短大も含むデータで高専が過小評価されることがありますが、この詳しい調査結果によると、少なくとも30歳以上の年収は、高専本科卒は大学卒と大学院修士の平均と殆ど同じです。高専卒業生の高い評価を示す統計データでしょう。

ここで興味深いのは、高専卒業生の年収と職場での地位、そして仕事の満足度について、高専に在学していた時の何が重要だったかという調査結果です。学業

成績やものづくり能力と同じ程度に重要だったのは高専時代の友人満足度でした。一人一人が尊重される多様性の時代と呼ばれる今日でも、やはり他者との関わりが重要だと皆さんの先輩は言っているのです。当たり前のことに聞こえるかも知れませんが、今日の産業界は異分野融合と呼ばれ、技術者にとって他者との連携が益々重要になっています。今日の技術開発では、スマートフォンの出現に代表されるように、ある専門技術の高度化よりも、様々な技術を融合して新しい価値を創造する手法が主流になりました。先ほど、不得意なことは得意な人の力を借りる、と言ったことにもその時代背景があります。皆さんは社会に出ると、自分の個性と力を活かすと同時に他者の個性と力を尊重し、協働で目的を達成することの重要性を身に沁みて実感されるでしょう。

この事とも深く関係する現代の特徴をもう一つお話します。社会の問題が大変複雑化した今日は、選択枝が多く、正解の無い時代とも言われます。皆さんはこれから社会に出ると、様々な場面で、ものごとの多様な側面を考慮して判断することを迫られるでしょう。例えばコロナ対応を考えると問題の重要性と難しさが理解できるはずですが、安全性は極めて重要ですが、それだけを重視して教育を含む社会活動を止める訳にはいきません。二者択一ではなく、また0か1の選択でもなくて、問題の多様な側面を配慮した納得感のある選択が求められます。その判断には色々な人と建設的な議論ができる人間力が必要でしょう。

その意味で、本校の建学の精神である知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びること無く、今一段とその輝きを増しています。この建学精神に則って皆さんが取り組んだ様々なことが、皆さんの素晴らしい個性と社会で協働できる資質の礎になっていることを自覚して頂きたいと思います。

もう一つアドバイスをさせて下さい。明確な目標はモチベーションになるので、先ず目の前の仕事や勉学について目標を立てて全力で努力しましょう。しかし私のアドバイスは、その目標だけに拘り過ぎないで欲しいということです。社会はあまりにも急速に変化しており、近い将来皆さんの中には、今は想像さえしていないことに取り組む人も多いはずですが、ですから自分の様々な可能性も視野に入れて一層自己研磨されることを期待します。

最後に、高専生活では色々な躓きや悩みもあったと思います。中でもこの三年間は予期せぬ新型コロナウイルス感染症に直面されました。謳歌すべき青春のまっただ中で不自由な生活を送らざるを得なかった三年間は大変残念だったと思います。しかしその不自由さの中で、皆さんは高専大会やロボコンを初めとする様々な活動で大活躍されました。特に2年間のブランクのために先輩から引き継ぎができない中、高専祭を再開して大成功に導きました。まさに仲間と協働して物事を成し遂げる皆さんの力の真骨頂を見た思いです。フィナーレを飾ったメモリーズのパフォーマンスは皆さんにとって一生忘れることが出来ない思い出になったことでしょう。

私たち教職員は、皆さんの人生の最も大切な成長の時を共に過し、喜びや苦勞を分かち合えたことに心から感謝しています。卒業、修了される皆さんが社会で活躍されることを信じて疑いません。皆さんの活躍を心から願い式辞とします。

令和五年三月十七日

鈴鹿工業高等専門学校長

竹茂 求